

幹事・世話人からのメッセージ

代表幹事 福田 吉治

帝京大学大学院 公衆衛生学研究所 教授

今回、代表幹事を務めさせていただくことになりました。内容については、趣意書に記載したように、ヘルスケアと“お金”について議論したいと思っています。これまでのHRWでは、私自身、一般参加者あるいは世話人として参加し、多くの学びがありました。過去の世話人やサポーター等が育ててきた伝統を大切に、ヘルスリサーチへの社会的ニーズ、そもそものHRWの意義などを考えながら、少しでも新しいことも織り交ぜたプログラムにしています。参加される皆さんが、楽しい、そして、有意義な時間を過ごせることを心から願っております。

幹事 岡田 浩

京都大学大学院 / University of Alberta 研究員

医療や社会保障費用の増大は、高齢化が急速に進む先進諸国共通の課題です。私が住んでいたカナダでも、日本同様に医療費コストの上昇や医療者の不足が年々進行し問題となっていました。対策として臨床研究に、州政府が資金を提供してヘルスリサーチを促進することで、研究結果を政策に反映させ、検証まで行う仕組みを作っていました。「お金」という限られた資源を住民に還元するためには、「ヘルスリサーチ」はもしかすると日本よりも大きな役割を果たしているのではないかと感じました。今回のワークショップで、多様なバックグラウンドを持つ参加者の皆さんとこの「ヘルスリサーチ」と「お金」について議論できることを楽しみにしています。

幹事 原田 昌範

山口県立総合医療センター へき地医療支援センター センター長

今回は「お金」がテーマ。かつて「一人の生命は地球より重い」と、身代金600万ドルの支払い、超法規的措置として獄中メンバーの引き渡しを決断した総理大臣がいらっしゃいました。日本が生んだ免疫チェックポイント阻害薬「オプジーボ[®]」は、年間使用すると薬剤費だけで約3,400万円（体重60kgの場合）。高額すぎると批判され薬価が下がり、年間約1,300万円になりましたが、適応する「がん病名」はさらに拡大しています。命とお金の問題。すでにモヤモヤしています。異業種、異文化だからこそ普段では得られない「気づき」があると思います。ワークショップの出会いや気づきから新たなリサーチが生まれることを期待しています。

幹事 高橋 美佐子

朝日新聞 文化くらし報道部 生活グループ記者

生まれて、生きて、死ぬ…。太古から繰り返される生命の営みを人間に照らして考えた時「お金＝経済」という問題に向き合わざるを得ません。それは貨幣という価値を生み出した宿命でもあるでしょう。他方、世界はグローバル化し、多くの先進国が「少子高齢化」という課題を抱え、解決策を探っています。しかし、ある社会学者が「これこそ人類が夢見た『長寿革命』が実現した姿」と言い切った。私は絶句しました。子どもの出産費用、結婚資金、葬儀や墓を維持するための出費などなど。自分事に引きつけながら社会の難問を考える「ヘルスリサーチ」の議論の王道に切り込む今回、皆さんとの「知の格闘」を心から楽しみにしています。

世話人 山崎 元靖

済生会横浜市東部病院 救命救急センター長

生命に関わる重症患者の治療を担っている救命救急センターでは、命の重さを感じない日はありません。しかし命の重さと比べて「お金」への認識は軽くはないでしょうか？それは保険制度のせいかもしれませんし、「命の重さをお金で量るのか？」という道徳的観念のせいかもしれません。昨年公表された日本臨床救急医学会の「人生の最終段階にある傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生等のあり方に関する提言」でも、「医療費の削減を目的としたものではない」と明言されています。様々な立場の人が自由に意見を交わせるHRWでは、ややもすればタブー視されがちな「命と金」についても、深い議論が繰り広げられるのではと期待しております。

世話人 石堂 民栄

チームグクルLLC 代表社員 / 保健師

日々、生活している中では、なかなか深く考える機会が少ないと感じていることですが、自分ができることを考え、それを精いっぱい行うこと、それが、自分の人生を豊かに、自分らしく生きることにつながっていくことではなからうか、どのような死を迎えたいかと考えることは、どのように生きていくかということにつながっていくことではなからうか。今回、生きていく、実現していく上において、必要となる「お金」をテーマに、わくわく、ドキドキしながら、みなさんと元気交流できることを楽しみにしています。2日間、どうぞよろしくお祈りします。

世話人 永森 志織

NPO 法人難病支援ネット北海道 理事

これまで5回連続で参加させていただき、今回から世話人を拝命いたしました。このワークショップにまた関わらせていただくことをとても嬉しく思っております。今回は初めて「お金」がテーマです。医療とお金、健康とお金、ごく身近な割には本音で話すことが少ない話題かもしれません。このワークショップでは様々なバックグラウンドを持つ参加者同士で遠慮なく意見をぶつけ合い、夜通し本音で語り合い、最終日のチーム別発表に向けて知恵を絞り、力を合わせていただきます。今後の活動につながる「出会い」や「気づき」や「きっかけ」を見つけていただけると嬉しいです。2日間、存分に楽しんでください！

世話人 山岡 淳

神戸大学経済学研究科・経済学部 准教授

今回から世話人になりました山岡です。医療における困難な局面を打破すべく、いくら崇高な政策理念を掲げても、いくら万人その理念に賛同しようとも、最後に大きな障壁としてゆく道を遮るもの、それが「お金」です。なぜ、医療はお金がかかるのでしょうか。それは人的資源や物的資源が有限であるから、というのもそうなのですが、やはり「命」が関わるからです。基本的に、我々が命を「大事」にすればするほど、その価値は高くなり、お金がかかります。命に向き合うということは、同時にお金に向き合うということなのです。もっと話したいのですが、このあたりで切っておきましょう（笑）今回も白熱した議論が繰り広げられそうです。

(敬称略)